

取材協力／海老名総合病院

# 開院から30年、新たな時代へ一歩

内山喜一郎 病院長

2008(平成20)年1民間では県内初の地域支援病院の認定を受け、海老名市をはじめと大原次域の中核的な「急性期施設」としての役割を担う海老名総合病院。今年開院30周年を迎え、これまでの歴史とこれらについて同僚の内山喜一郎病院長に聞いた。

## 「海老名に救急を」―創業の理念今も

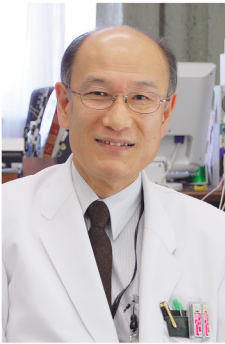
海老名市に開院して今年で30年。開院に至るまでの経緯を教えてください。

昭和49年に「地域に根ざした医療を提供しよう」と日本医科大学の同級生4人が法人「仁愛会」を設立し、埼玉野郎で東埼玉病院を開設。その後10年後に海老名総合病院が開院しました。当時救急医療圏が海老名に無かった。そこで4人は「救急をしっかりとやり、また、地域に役立ちたい」と当時のこの地域の医師会に働きかけました。しかし「仁愛会」は当時は海老名市では認知されていなかった。院長の田中昭一郎(現海老名市医師会会長)は救急にかけろと思ひ、必要性を根拠強く訴え続けた結果、医師会から協力を要し、昭和58年に設立するごうできました。

創業者の使命は海老名地域の救急医療を確立することでした。私たちはその思いをしっかりと引き継いでいかなければなりません。法人名変更しましたが「仁愛会」は平成15年に施設の増加に伴い「ジヤパンメディカルアライアンス」に改名しました。アライアンスとは「緩やかに繋がる」という意味で、総合病院、海老名メディカルサポートセンター、海老名メディカルプラザなど関連施設も含めて、決して縛られることなく、いつでも緩やかに連携していくという意味が込められています。

**創業者の先見の明**

創業者としての30年間に病院としての大きな枠を作りました。それは内科一科一科と進んでいくのではなく、呼吸器内科、血液内科、消化器内科と細かく別れている「民間病院」はあまり例がなく、前院長はそんな患者さんに対応できるような病院作りをしました。また、初期で藤澤雄院は総合病院「総合」はいろいろな診療科が集まった「雙」ではない。職員は総合力を持って患者さんに対応することだと言っていました。みんなの力をあわせて対応するチーム医療。私もその考えに感じ、目頃から職員に話しています。またこの30年で「施設群」ができました。これからは内容の充実が必要になる。それにはまず水系統の多組織作りです。開院当初は院長、事務、薬剤師、検査技師ら各々が専門の仕事をしたが「総力」で参加し、少数でも構いません。何役もこなしながら病院を作ってきたのです。やがて診療科も人も増え、病院の強が広がってその体制は続てきました。結果高い医療を患者さんに提供できるようになりました。経営を担う人財育成



内山喜一郎病院長

「市民病的」な役割果たす

今後の目標を教えてください。

「これからの30年は、しっかりと柱が必要で、そのための人材育成が急務です。3年前から「コンスト・コアカード」という経営手法を導入しました。これにより院内のコミニティが育ちました。支援助病院としての役目です。また「社会医療機関」として「公的」な医療機関と同等の仕事をしていきます。当院は救急センターが公益性が認められ、法人資格が与えられました。救急部門に因しては公的助金は微々たるもので、自腹を切っています。創業以来の「使命」として「仁愛の精神」を守り、今後も救急を中心に地域に尽くします。

医療を変えてきた

これからはよりよい医療のため、しっかりと組んだらゆるる方面に対応しなければならなりません。(じ)あ病院を増やさない、と思われながらも、医療計画で病棟が決められていて現状は無理だから私たちが持っている機能をより高め受け入れなければいけません。私たちは民間病院ではありません。もう一つはがん治療。前開発で若い世代が増えますが、元々任せていた人の



外観

高齢化を進む。海老名市の高齢化は急速に高まり、あらゆる方面に対応しなければならなりません。(じ)あ病院を増やさない、と思われながらも、医療計画で病棟が決められていて現状は無理だから私たちが持っている機能をより高め受け入れなければいけません。私たちは民間病院ではありません。もう一つはがん治療。前開発で若い世代が増えますが、元々任せていた人の

コールセンター(予約専用)

046(234)6529 www.jinai.jp

海老名市河原口1320 046(233)1311(代) 平日 8:30~17:00 / 土 8:30~12:00



JAPAN MEDICAL ALLIANCE  
社会医療法人 ジャパンメディカルアライアンス

# 海老名総合病院